

1995 度 上半期 報告書 一橋大学 一橋山岳部

1. 新歓山行 乾徳山 4/22-23

メンバー：涸沢、吉武、大谷、西井、藍、小倉、平岡

4/22 曇り 一年生は山の経験があるようで健脚である。国師々原で泊る。

4/23 晴れのち曇り 6 時頃涸沢、平岡が来る。平岡は既にばてていた。月見岩のあたりの岩場はけっこう恐ろしく新歓山行で一年生に「山岳部は良い所だよ。」とだますのは無理だったみたいだ。雨が降って来たので西沢溪谷行きは止め、来た道を引き返す。

(文責：西井)

2. 残雪期山行 頸城 5/2-4

メンバー：涸沢、吉武、大谷、西井

5/3 7:43 笹ヶ峰→12:03 高谷池→14:00 火打山→15:24 高谷池

夜行急行で黒姫まで、タクシーで笹ヶ峰ロッヂまで行く。タクシーの運転が荒かったので大谷以外は皆 30 分くらいロッヂの駐車場で唸っていた。天気は快晴で結構暑く、スキー客がやたら多い。黒沢に降りる辺りで今まで緩やかであった道が急になる。富士見平からはその日に泊まる予定の高谷池ヒュッテ迄望むことができる。雪の反射が強くゴーグルをしないと目に悪そうである。高谷池ヒュッテに荷物を置いて火打山に登る。最初のうちは晴れていたのだが、尾根に出るころ風が強くなり、徐々にガスが出て来た。とりあえず登りが何もみえず走り降りて引き返す。山を降り切った辺りで後ろを見ると頂上にはすでにガスがなかった。

5/4 7:00 大倉乗越→8:20 長助池→10:35 妙高山→16:50 前山→18:20 赤倉温泉

天気も穏やかでありあまり寒くもなく朝を迎える。雪が少ししまっていたのでアイゼンを履く。大倉乗越の下り始め部分が結構高度管があり恐ろしいのでザイルを使う。私たちが降りた頃に下り始めたおじさん達はピッケル反対に持って下り降りていた。昨日とは一転して妙高の頂上ではよく晴れていて、燕温泉・小黒姫・乙見湖間で 360 度見通すことができ感動した。降り道は光善寺池に降りる方にしたのだが、岩肌が隠れる辺りから雪はしまっておらずのっぺらぼうな斜面になったので暫くザイルを使う。その後外輪山には上にはすでに雪がないため藪こぎまでしなければならなかったが、風もガスもないまま無事に赤倉スキー場に着くことができる。(文責：西井)

3. 雪上訓練 大樺沢 5 / 26 - 28

メンバー：湊沢 (CL)、大谷 (SL)、吉武、藍、平岡、宗像

5/26 夜甲府に着いてから、車が夜叉神までしか入らないことが判明。慌てて引地OBに電話して事情を那須。自分たちだけで雪訓をするつもりだと伝え、平謝り。タクシーで夜叉神まで行く。(しかし、夜叉神までならバスもあったのだ。大損である。)

5/27 快晴

さわやかに晴れ渡り、空気がすがすがしい。林道歩きの退屈を野呂川越しの山々が慰めてくれる。ほんのちょっとした距離だけトラックの荷台に乗せてもらい、はしゃぐものあり。登山道の急登で平岡が遅れる。沢は崩壊が激しく、渡渉地点を探すのに苦勞する。さすがに雪が多く、かなり下の方からキックステップで行く。歩行、ピッケルストップ、確保訓練をして終了。他に誰もいない静かな一日であった。白根御池に水が出ていないことが分かり、焦る。雪を溶かすことも考えたが、淵沢が近くに沢の音が聞こえるからそこからとろうと提案、大谷が取ってきて事なきを得た。

5/28 晴れのち曇り

小屋のすぐわきの夏道の斜面にかなり雪が残っているので、そこでやる事にする。ガリガリに凍っていて、雪訓にはもってこいである。1年生はさすがに最

初こわごわ歩いてしたが、3人とも中々上達が早い。確保訓練もたっぷりできたので、林道歩きを考え早めに切り上げる。下りでは吉武がバテバテになり、平岡も遅れ気味。予想より時間がかかった。広河原では運よくヒッチに成功。水とレーションだけ持った淵沢と大谷を残し、後は夜叉神へ。その2人も歩き始めて40分ほどで車を拾い、順調に夜叉神についた。（文責：淵沢）

4. 葛葉川本谷 6/17 メンバー：淵沢、吉武、宗像、藍、古瀬OB

曇りのち晴れ 秦野駅に8時30分に集合の予定だが遅刻者がでて1時間近く出発が遅れる。秦野から菩堤までバス。そこから40分ぐらい歩いて入渓点となる。湖付近は「葛葉の泉」として整備された公園になっており、少々沢登りの気分を害する。遡行自体は快調に進み、途中「板立の滝」でザイルを出したのみで、特に支障はない。林道の下をくぐると水が少なくなり、しばらく快調に進む。通商「富士形の滝」辺りで、2組程他のパーティーを見る。後ろを振り返るとどこからとんでいるのか、遙か彼方をパラグライダーで飛んでいるのが見える。少々登り応えのある滝を越え、水が涸れて来た辺りでご丁寧にテープやらペンキやらで左の方に指示があるので、そこで水を汲み沢を離れ、踏み跡をたどって三ノ塔尾根の登山道にでる。大倉を目指して一気に下る。このころから青空が広がる。表丹沢林道から下は舗装された道なので、皆てんでバラバラに離れて歩く。そのため、古沢・宗像・藍と淵沢・吉武戸の分かれてしまい、淵沢・吉武両名は大倉に下らず、戸沢入口の方に行ってしまった。結局古瀬・宗像・藍は大倉から、淵沢・吉武は戸沢入口からバスで渋沢駅に行き、駅で合流した。（文責：藍）

5. ボッカ訓練 奥多摩 7/1-2

メンバー：淵沢CL、大谷SL、吉武、宗像、藍、平岡

7/1 雨のち曇り 朝土砂降りのため、急遽日曜日帰りとする。しかしそれを全員に連絡してから数時間で雨がやみ、早まったと後悔する。土曜日が中止になったことにより、西井は別の週に1人でほぼ同じコースをボッカすることになった。

7/2 曇り朝のうち一時雨 五日市 7:20→12:20 御岳山 12:40→13:50 鍋割山 14:10→15:00 頃大日岳戸の分岐 15:18→16:50 白倉バス停

朝一番で五日市駅に集合。河原で石を集めて出発。平岡、吉武が遅れ気味。大谷も張り切って 40kg 近い荷物を背負っているため、アゴが上がっている。全員バテバテで歩くが、藍と宗像だけがおしゃべりに興じながら余裕で歩き、皆のひんしゅくを買う。御岳山では 4 人が下でぐったりしているのを尻目に 2 人で走って山頂を往復。

急な登りを終えてやっと鍋割山に到着。缶詰パーティーとなる。このころから吉武のバテがひどくなり、大日岳は時間切れでカット。バスに間に合わせようと駆け下りるが、吉武が走れなくなり、やむなく石を捨てさせる。時間ギリギリでバス停に到着。1 年生 3 人がパワフルな走りを見せ、頼もしかった。

(文責：淵沢)

6. 一ノ瀬川 竜喰谷・大常木谷 7/7-10

メンバー：淵沢 CL、大谷 SL、吉武、西井、宗像、藍、平岡

夏合宿に沢を入れることにしたので、プレ夏の一つとして計画した。

7/7 奥多摩駅集合に遅れる者数名。お陰でタクシー代が深夜料金となる。11 時過ぎ頃林道の脇にフライを張って就寝。夜中雨が降る。

7/8 雨時々曇り

7:00 出発→8:50 F 6 →11:50 林道→12:50 三ノ瀬の舗装道路

林道の車寄せからの踏み跡を下りて一ノ瀬川を渡る。雨続きだったが渡渉に問題はなかった。F 1 で左岸のちょっとした岩に吉武が手間取り、吉武のみ巻く。ナメ滝最後の渡渉で二人滑って流されそうになり、後続が引っ張り上げた。沢は初めての 1 年も調子よく歩き、大常木林道につく。沢に小さな橋がかかっている、林道というより登山道である。ずぶ濡れになって大常木出合いの道路わきにフライを張る。

7/9 曇り、朝少し雨

4 : 00 起床- 5 : 30 出発→8 : 30 出合→17 : 30 15m滝→20 : 40 ビバーク地点

西井が風邪をひく。数時間で青梅街道なので問題ないと判断、一人で帰らせる。踏み跡をたどって一旦沢に降りるが、そのまま上流に行くことが出来ず引き返し、別の踏み跡を降りる。上級生の地図読みミスが原因である。かなり急で狭く、少々怖い尾根であった。最後に1ピッチ下級生にだけ懸垂させたが、この時藍の足に太い木が落ちてきて当たった。大丈夫そうなので先に進む。一の瀬川を上流に5分ほどで出合。最初のゴルジュ帯は快調に突破。千苦の滝に着く。ところが10人以上のパーティーが巻き道にザイルを張っており、20分以上待たされる。淵沢トップで1ピッチ、上の残置を使った。その後もいやらしいトラバースだったがノーザイルで滝上部に出、岸まで10m弱懸垂する。Orderは大谷、1年、吉武、淵沢。淵沢が懸垂している時、大谷は吉沢が渡渉中に転んで滝から落ちたという。この時1年生が渡渉を終え、大谷が沢の途中に立っていた。水深はひざ下程度、水量に比して川幅が広く、流れもゆるい。信じられない思いで淵沢が再び登り返し、下を伺うと、すでに吉武は岸の川原に立ち、手で大きく丸を描いていた。安堵で全身の力が抜ける。ザイルを回収して最初にザイルを張った地点まで引き返し、上からザイルを垂らして再び吉武を引き上げた。二度目に滝上部を渡渉するときはザイルを張ったが、今度は何の問題もなく渡る。落ち口近くのぬめる一枚岩に足を滑らせたのが原因。すぐ近くには浅い砂利底があり、吉武の判断力のなさとそれを上級生が完璧にフォローしなければならないことを肝に銘じる。前日ちょっとした渡渉で吉武が足を滑らせていたことをもっと追究するべきだった。25mの高さから落下してけが一つなかったのは殆ど奇跡である。落ち口が一番張りだした形の滝で、滝壺まで何の障害物もなかったこと、滝壺が深かったこと、周りが広い川原になっていたことが幸いした。滝壺の流れに巻き込まれることもなく、気がついたときは岸近くに浮き上がっていたらしい。

それ以後は吉武にピッタリ溯沢がくっついて行く。その後は残置シュリングに助けられたこともあり順調に進む。しかし大常木林道を見過ごして先に進み過ぎてしまい、15m滝の手前で引き返す。林道を通り過ぎたのはおそらく1

7 時頃と思われる。目印の右岸にある小屋跡は既にトタンの残骸のみとなっていた。対岸にあるはずの林道が見つからず探すのに手間取り、19 時頃出発。ヘッドランプをつけて歩く。林道は竜喰谷のときとは大違いのかなり荒れた踏み跡で、時々道を失う。大崩壊のルンゼへの降り口が見つからず、また暗い中、崩壊したガレを渡るのは危険と判断、ビバークを決意する。少し戻って林道に無理やりツェルトを張る。

7/10 晴れ 4:40 発→5:25 登山道→7:40 青梅街道→8:10 丹波

淵沢が前日立ち往生した地点まで行き、かすかな踏み跡を発見、歩けるくらいの明るさになるまで待って出発。路はその後さらに荒廃がひどくなり、ところどころ笹を掻き分けたり、今にも壊れそうな橋を渡ったりする。登山道に出た時はさすがに全員ほっとした様子。最後に小常木谷・火打石谷を渡るとき一度路が途切れるほかは立派な登山道だった。雲一つない快晴が恨めしい。ヒッチハイク下 3 人が駅でバス組と合流し、電車に乗る。

今回の山行で吉武の扱いとパーティーとしての問題が話し合われた。その結果、「夏合宿に連れていくには上級生がかなり力を入れて吉武をサポートする必要がある。又地図読み能力、判断力等では、日高に関しては地図読みについてそれほど問題となる個所はないので、慎重を期せば大丈夫だろう。吉武にはぴったり淵沢が付き、ためらわずザイルを張るよう心掛ければ沢については連れて行ける。その場合かなり行動が遅くなることが予想されるが、連れて行けないというほどではないだろう。しかし、このような簡単な所で事故を起こすことを考えれば、吉武の基本的な「歩く力」にも疑問が出る。今まで重荷を背負って切れ落ちた岩稜を歩いた経験がないので、普通の岩稜ではちゃんと歩けるかどうか確認しなければならない。夏前に岩稜歩きの縦走に連れて行き、最終的に吉武を連れていけるかどうか判断する。」ということになった。

しかし、その前に弥七沢で、一瞬淵沢が離れた間に吉武が 2 m ほど滑落し、足を打ってプレ夏の岩稜歩きが出来なくなり、吉武は合宿に行けないことになった。同時に淵沢をはじめ上級生のサポート力の甘さが浮かびあがり、合宿に向けて厳しい反省が行われた。(文責：淵沢)

7. 丹沢 弥七沢 7/23

メンバー：澗沢、大谷、吉武、西井、宗像、藍、平岡

7/23 曇り

5:00 起床—6:00 発→8:10 中股出合 8:25→10:30 稜線→16:20 出合

22日の夕方に沢の出合まで入り、たき火を囲んで夕食を楽しむ。この付近はオートキャンパーが多く、夜中までエンジンがうるさい。

翌朝遡行を開始する。小川谷林道をくぐり堰堤を梯子で越え、薄暗い沢床に立つ。水は少なく、すねまで浸るのがせいぜいである。2カ所ほどザイルを使うが後は特に問題なく進む。木漏れ日がさしてきて白い沢床にきらきらと映える。右俣と中股との出合で休憩したのち、中股を詰める。すぐに水が涸れ、だんだんと岩がもろく崩れやすくなる。この辺りは花崗岩が主なので岩は砕けやすい。最上部はガレがひどい。平岡が手をかけたところがくずれ、危うく転落しそうになるが、ザックが木に引っ掛かってとまり、事なきを得る。その後は少し笹を漕いで尾根に出る。尾根上には明瞭な踏み跡がある。しばらくそれをたどり、左俣を下降すべく踏み跡からそれ、沢に入る。少し藪を漕ぐと、またガレ場になる。水はない大きな滝を一つ高巻くが、笹で苦労する。さらに下ると水が流れ出し、沢床が白くなる。なぜか右俣・中俣の出合に出る。一同、左俣を下降するつもりが中俣を下降して来たことを知り腰が砕けそうになるが、気を取り直して下降を続ける。高巻きと懸垂下降を繰り返し、小川谷林道に出る。林道を玄倉まで歩き、バスで新松田に出る。(文責：藍)

8. 夏合宿 in 北海道 日高 8/1-15

メンバー：澗沢、大谷、西井、宗像、藍、平岡

8/1-2 大洗港—(フェリー)—苫小牧港

8/3 曇り 澗沢さんと苫小牧港で合流。(先に北海道に帰省していたため) 日高本線に乗り、静内駅へ向かい、次にタクシーに乗り換えペテガリ山荘へ向か

う。途中、営林署で届を出し、「熊」情報を聞くが、最近は報告がないとのことで一同安心。ペテガリ山荘は素晴らしい。というのは2階建てで毛布や布団までもあるからだ。明日の行程を思いつつ早めに寝る。

8/4 晴れのち曇り 4時起床、5時10分出発最初は沢沿いを歩くが、次第にトドマツの造林やクマザサの茂みが現れる。6時35分尾根道に出てアップダウンがはじまる。7時10分1050峰に到着するが、途中、ヒグマの糞を発見し、ホイッスルを吹きつつ行く。10時50分コルに到着するがその後の500m連続急登はつらい。平岡バテバテになりながらも13時5分ペテガリ山頂に到着。写真を撮り、小休止するとハイマツの軽い藪こぎをしながら尾根歩き。15時15分Cカール分岐15時40分Cカール着。

8/5 曇りのち晴れ

3時30分起床、5時出発。6時ルベツネ南峰に到着。この後、アップダウンのない藪こぎが続く。7時40分ルベツネ山頂、8時55分1688峰を過ぎると藪こぎが少しきつくなる。10時40分1469峰を過ぎると猛烈なやぶになる。13時1600峰に到着。ヤオロマップでの露営から1600峰のそれに変更。

8/6 晴れ時々曇り

3時55分起床、4時50分出発寝過ごす。雲海が素晴らしい。藪は相変わらず激しく、ついに大谷さんのキスリングが裂ける。8時30分1569峰11時55分ヤオロマップ頂上に到着。稜線は徐々に快適になるが、気温が高すぎる。13時30分1752峰で平岡がダウン。淵沢さんが平岡を銀マットであおぐ。結局平岡の荷をボッカすることに。16時35分コイカクシュサツナイ頂上に到着。淵沢さん、西井水汲みに16時50分出発、18時30分戻る。

8/7 曇りのち雨

4時30分起床7時10分出発下山か続行かでもめ、藍を下山させることに決定。というのは昨日足を痛めたためだ。夏尾根（エスケープルート）を下り、沢の出合いに10時50分到着。11時50分出発。無線が使えず、ヒュッテにタクシ

一を呼ぶことが出来ない。途中会ったおじさんに自動車に乗せてもらうことに決定。2時10分林道に出て藍と別れる。2時50分札内ヒュッテに到着。

8/8 雨 札内ヒュッテで沈殿 札内川増水

8/9 雨 10時5分出発 12時5分七ノ沢出合に到着、増水のため半沈。

8/10 曇り 沈殿 16時東海第四高校ノ山岳部が下山してくる。八ノ沢と七ノ沢の間の中ノ沢に閉じ込められていたらしい。彼らに詳細な巻き道を教わる。

8/11 曇りのち雨 3時30分起床、4時40分出発。七ノ沢と八ノ沢の間の機能教わった巻き道を通る。これが終わると河原歩き。8時5分八ノ沢出合に到着。川原歩きを続けていると大雪溪が現れる。中の俣の方面に行き路を間違え、大滝（100m近い）に沿ってひたすら登っていく。すると急に平地すなわちカールに着く。3時30分八ノ沢カールに着く。白い花が満ち溢れる幽玄なカールだった。

8/12 晴れ 3時30分起床、4時45分出発。6時45分カムイエクウチカウシに到着。白、黄、赤、ピンクの花々に囲まれた美しい山。路も藪こぎがなく、すなわち整備され歩きやすい。10時1917峰、11時50分春別岳に到着。札内分岐、エサスマントツタベツの間は再び藪こぎが現れつらい。17時29分エサスマントツタベツに、18時5分北カールに到着。平岡がバテる。

8/13 曇り 5時起床、6時5分出発。カールの中で新しいヒグマの糞を発見、皆緊張。滝が一つ難しい所があったが、それ例外はハコがあるくらい。大常木谷で鍛えた我々に「恐怖」という文字はない。10時15分上二股、12時27分新冠二股に到着。たき火をして、服を乾かす。

8/14 曇りのち晴れ 3時30分起床、4時45分出発。新冠二股を出て七ツ沼カールを目指す。大きな転石帯が現れた。歩きづらい。ナメ滝から「核心部」に突入。赤いテープの誘導があったが、巻き道を進み、後に続く滝を越えていく。そして小滝を登るといった急登が続く。10時45分七ツ沼カールに到着。高山植物は少し遅すぎたようだ。12時25分カールを出発し、稜線に出、空身

にしてトッタベツ岳へ。13時15分頂上に到着。15時45分幌尻岳のコルのテン場に到着

8/15 雨のち曇り 3時30分起床、4時45分出発。雨が我々をたたきつけ、「下山パワーを発揮して下降するが、その後の林道歩きを思うとスピードが落ちる。8時30分奥新冠ダムに到着。その後焼く16km林道歩き。14時55分発電所近くにある糸納峰山荘に到着。新冠方面に行く車に行く車にタクシーを呼んでもらうことにして待つが、18時になっても来ない。どうやらタクシー会社が呼び逃げを恐れたようだ。18時5分第一陣として涸沢さん、平岡、宗像がヒッチハイクで新冠に向かい、20時40分到着。涸沢さんは折り返しタクシーで山荘に第二陣を迎えに出発。0時過ぎ、涸沢さんを含む第二陣も新冠に到着。新冠駅で寝る。(文責：平岡)

9. 個人山行 北ア・涸沢・岩登り 9/1-5

メンバー：古瀬、大谷、宗像

9/1 晴れ 松本＝上高地→涸沢

31日夜急行アルプスに乗る。新島々では数日続いた雨の影響による通行止めでバスが動かず、1時間ほど足止めを食らった。上高地から涸沢までの歩きで不覚にも大谷がバテる。古瀬と宗像は歩く鬼だ。

9/2 晴れ 5:10 涸沢→6:00 5・6のコル→7:10 4峰ピーク→9:10 前穂頂上→奥穂→涸沢

北尾根を登る。3峰で2ピッチ張る。いずれのピークも一般的なルートより少し右側を登ったため、かなり細かく怖かった。晴天が続き、高度感が快かった。

9/3 雨及び霧 霧雨により沈。この日宗像は下山。

9/4 曇り 6:15 涸沢→8:00 穂高山荘→9:20 ジャン西の科尔→10:40T3→
(5P) 13:00T2 直下→(5.5P)17:10T1→17:30 ジャンダルム頂上→16:35
穂高山荘→涸沢

ジャンダルム飛驒尾根を登る。ジャンダルムとコブの間の科尔からβ沢を下り
るのに難儀する。ガレが多く傾斜の大きな岩もいやらしい。飛驒尾根自体は特
に問題なし。T2のフェースが気持よかった。この日も晴天。快哉！！ちなみに
涸沢を登って30分後に大谷がバイルを取りに戻ったため取り付きが遅れた。

9/5 晴れ 5:30 涸沢→6:55 三峰フェース→10:30 前穂→12:15 奥穂頂上
→涸沢→徳沢三峰フェース RCC ルートを登る。この日も取り付きまでガレに苦
戦。岩登り1ピッチ半で核心部下のバンドに立つ。ここから左のフェースを攀
じる。結構エグい。(1ピッチ) その2ピッチ張って3峰を回り込む。(計4.5
ピッチ) 日陰で寒かった。この日徳沢まで行く。テント代をケチろうとしてし
らばっくっていたら、管理人に見つかって代金を倍請求された。(文責:大谷)

10. 久住(白口岳、中岳)

9/9,10 宗像

9/9 晴れ/曇り 8:40 沢水登山口出発→鉾立峠→12:30 白口岳→13:00 御
池→中岳→13:30 御池→久住分かれ→北千里浜→15:30 法華院

沢水から鉾立峠までは鍋割坂を除いて楽に登れる。鉾立峠手前の佐土窪はう点
は迂回するらしい。鉾立峠から白口岳まではきついのぼりである。白口岳から
御池まで近道して水を汲むが、少々道が荒れている。御池に荷物を置き九州最
高峰の中岳を往復する。ここからは久住山、稲星もすぐに上がれる。御池から
人の多い久住分かれを通り過ぎ、少し下って北千里に出る。硫黄山の煙のため
草が生えず、賽の川原のようなところで、視界が悪い。時には迷うこともあ
らしい。北千里～石を落とさないように下り、下りきったところが法華院温泉
である。ゆっくり温泉に入り寝る。

9/10 雨 6:00 起床、7:30 出発一坊ガツルー雨ヶ池→9:30 長者原

昨夜は中秋の名月で、月見が楽しめた。法華院から坊ガツルを横断し、雨ヶ池へと上がる。長者原への下りは岩がごろごろし、雨でぬれていたのが滑りやすい。長者原にも温泉があり、入って帰る。

1 1. 個人山行 奥多摩 ジダクラ沢 9/23 大谷, 上山(部外者)

寮で同室の上山とジダクラ沢を遡行。「2 段 6m 滝は左が登れるが少し滑りやすい。」[東京付近の沢] とある滝は実際に滑りやすい。シャワークライム、ナメ滝とコンパクトながらたのしい沢だった。(文責：大谷)

1 2. 個人山行 上高地－槍－双六－笠 9/23-25

メンバー：吉武、寺島 OB

9/23 霧雨→晴れ→曇り 6：50 上高地→8：00 徳沢→9：00 横尾→10：20 槍沢ヒュッテ→14：50 殺生ヒュッテ

霧雨の中、紅葉も見られず、景色は全体にぼんやりかすんでいる。大勢のハイカーの間をぬって急ぎ足で横尾へ行く。ここから先は道幅も狭く、人もわずかでやっと山道らしくなった。ババ平のテン場で水を汲む。やっと日がさして辺りが明るくなり、両側から山が迫っているので気持ちがいい。水俣乗越分岐の標識を過ぎると台地上のところを目指してジグザグの登りが続く。ハイマツに覆われた大地の上に出るころには吉武がバテ始めており、空が曇って寒くなった。坊主岩に着く辺りから岩道が始まり、吐き気がし始めた吉武が何度も立ち止まるので、殺生ヒュッテが間近に見えるのになかなかつかない。

9/24 ガス→大雨 殺生ヒュッテ→(40分) 槍岳山荘 8時頃

周囲は真っ白に煙って何も見えない。待っていると、下からガスがドンドンあがってきており、時折槍の姿も見えるので、とにかく槍岳山荘まで行くことにする。ガスっているので小屋の中で待機するが、台風がもうやまぐちを過ぎていたので、天気は悪くなる一方である。風雨が強まり、テントでは無理そうな

ので小屋泊まりとする。丸一日沈とはうんざり。19時頃のニュースを見ると16時頃、台風が通過したので明日は晴れるという予報があり、宿泊客は皆喜んだ。

9/25 雲りのち晴れ

槍往復 6:30-8:00 頃、小屋→8:35 千丈沢乗越→10:35 樅沢岳→11:00 双六小屋→13:50 秩父平→笠のテン場

風は弱いガスっていて槍も見えない。登りたくてウズウズする。頃あいをはかり登り始めた。岩がまだ濡れているので、滑るのではないかと少々恐ろしかった。山頂では時々槍岳山荘も見えるので30分程粘ったが雲塊が次々と飛んでガスったままであった。だがブロッケン現象も見ることができた。下りも慎重に降りれば問題ないので登るとき予想したほど怖くはなかった。

山荘から千丈沢までは急なツツラ降りのザレ場である。ここから先の西鎌尾根はガイドブックによると悪展示はベテランでも通過困難と書いてあったので緊張していたが、悪点ではなかったからか、何のことはなかった。鎖も何本かあったがなくても行けそうに思った。千丈沢では紅葉が始まっていた。2674ノ登りにあえいだ後、3羽のまだ茶色い雷鳥に合う。3羽とも同じ方向を向いてじっとしているのはなぜだろうか。その前に1648を過ぎた先でハイマツの間を抜けた後に一瞬方向感覚が狂い道を間違えたかと思った。硫黄のにおいを嗅ぎながら進むと、硫黄乗越の先に平坦なところがあって、鷲羽岳の方の展望が素晴らしい。樅沢岳のピークまではじれたい登りだ。明るく晴れていたので双六小屋の西側斜面を覆うハイマツの緑が鮮やかだ。弓折岳まではハイマツ帯の稜線歩き。弓折岳での休憩後、コンパスで確認しなかったため、双六谷側の途切れた踏み跡をたどりかける。少し進むと東に鏡平小屋が見えたが、紅葉真っ盛りの中で2つの青く光った池に挟まれて立っている様はおとぎ話のようだ。大ノマ乗越を過ぎて秩父平に下る頃、もう日がかげりはじめているにも関わらず、行く手に抜戸岳などの山塊がそびえ立ち、目的遅の笠は遠くにやっと頭が見える程度だったので気がめいった。のどかな秩父平など楽しむ余裕もなく、山塊の稜線を目指して重い足取りでジグザグ道を登る。秩父岩の手前で吉武は俣吐き気がしたが、寺島OBにリンゴを一切れもらおうとすっかり回復する。北東には午前中歩いてきた西鎌尾根が見える。笠はまだ遠く見えるが、秩父岩をすぎ

ると後はハイマツ帯の中、山腹をだらだら歩くだけ。巨岩の間を抜ける抜戸岳を通り過ぎれば人踏ん張りであっけなくテン場に着く。テン場の水は枯れていたの、寺島OBが水をもらいに小屋まで登った。食事を作る際、吉武は俣激しい吐き気がして初日同様夕食ぬきで寝る。

9/26 曇り 笠ヶ岳山荘直下テン場 6:30→6:50 頂上→12:50 バス停

今日の予想は曇りだそうだ。周囲は薄く切りが立ちこめている。また吉武は一晩眠って全快した。テン場からさんちょうまでずっと岩道が続く。ガスのため山頂からの展望は効かなかった。笠新道は崩壊、クリヤ谷への道は荒廃と聞いていたので、大ノマ乗越まで戻ってから下る予定だったが、小屋の人に様子を聞いてクリヤ谷へ下りることにした。西側を登って来た時と同様、笠ヶ岳の南側も岩道でペンキの印がきちんと付いている。このコースはあまり歩きやすいコースではないように思うが、道は明瞭で目印の赤いテープもずっと付いていた。雷鳥岩手前までは鞍部に下るごとに東側に槍や穂高連峰の灰色の姿が良く見える。クリヤ谷頭からの下りは急傾斜で長いツヅラ折が続き足が疲れる。クリヤ谷の2カ所の渡渉点は赤テープやペンキの印のお陰ではっきりしている。増水していなかったので問題なく渡れた。初めの方は岩伝いにわたり、穴滝上部の方は細い木を2本程組んで水に浮かべ、固定してあるところを渡った。下においてすぐの橋を渡ったところにある山荘の温泉に入れてもらった。帰りはヘアピンカーブの連続する安房峠を越えて新島々の駅に戻った。(文責:吉武)

13. 宮崎 大崩山 9/26,26 宗像

9/25 曇り 登山口出発 3:20→3:40 大崩山山荘

登山口から大崩山山荘まではほとんど上りのない山道を歩いてすぐである。山荘とはいっても川沿いに建つ小奇麗な無人の小屋である。今夜はこの小屋に一人で泊る。

9/26 晴れ

5:30 起床 6:10 出発→77 塚岩峰群→9:10 山頂 9:50→11:10 坊主岩→11:40 大崩山山荘 13:00→13:15 登山口→14:05 上祝子バス停→延岡

山荘から暫く歩いて川を渡渉する。沢に沿ってきつい登りを尾根を目指して登る。77 塚岩峰群に至ると数カ所岩峰群への分かれ道があり、岩峰上を歩いていたが、途中で岩峰から降りられなくなり、元の登山道へ戻ったのは残念。岩峰上から向かいに見える小積ダキノ岸壁は立派だが、アプローチがヤブで登るのは面倒そうである。山頂へと続く尾根は緩やかで、苦もなく山頂に着く。山頂からは眺望がわるいので、すぐ手前の石塚に引き返し休む。かえりは暫く引き返し、坊主尾根を下る。下りは急だが、整備が行きとどきすぎていて、かえってつまらない。坊主岩で尾根も終わり、沢沿いに下って渡渉し、山荘へ戻る。荷物が少なく早く着いたので、川でおよぐ。バスは一日一本なので注意。

(文責:宗像)

月見の宴のお知らせ

来る 11 月 4 日、例年通り部室にて月見の宴を開きます。当日は一橋祭でもありますので、お忙しいこととは存じますが、ぜひお越し下さい。

日時 11 月 4 日 (土) 午後 6 時から
場所 山岳部部室